

どんびま

2007年9月3日発行
 発行者 椋の湖農業小学校

いただきます

マスつかみは「狩をする原始の本能？」をくすぐるからか、とにかく面白い。見ていてもそうだから、やってる当人達は尚更であろう。

マスつかみの最後はハラ(内臓)出しをやってもらう。「命をいただく」ことを実感してもらうためだ。もちろん夕食でちゃんと綺麗に食べてしまうことも約束済みである。

農小では野菜を育てるが、野菜の命を全うさせる訳ではない。中途を奪って食べていることも伝えたい。

仏教国のブータンではあらゆる生き物は「誰かの生れ変わり」と信じられ慈しまれてきた。またアイヌの人たちは「神の贈り物」と語り継ぎ、感謝を忘れなかった。

農小でも、家庭でも さあ皆そろって「いただきます」 (草)

シュレーゲルアオガエル



S. Yamada

シュレーゲルアオガエル

まるで外国種のような名であるが、れっきとした日本在来種である。棲息数は割りと多く夕方から宵にかけて コロコロ コロコロ ココココ というような鳴き声をよく耳にするが、姿はめったに見ることは出来ない。田圃の畦土の中や雑草の蔓延る地面、あるいは庭の苔の中などに棲んでいるからである。アマガエルやモリアオガエルによく似ているが、アマガエルよりひと回り大きく、モリアオガエルよりひと回り小さい。名の由来は、シーボルトが日本で作った標本を研究したオランダ人学者シュレーゲルの名に因んだものとか。

9月授業日案内

日程	9月16日(日)
受付	8:30 ~ 9:00
はじめの会	9:00 ~ 9:15
授業	9:15 ~ 12:00
(栗拾い・畑仕事)	
昼食	12:00 ~ 13:00
授業	13:00 ~ 15:00
(稲刈り・バケツ稲品評会)	
終りの会	15:00 ~ 15:30
締め切り	9月11日(厳守)

持ち物 手袋、タオル、雨具、着替え
 食器、箸
 買い物袋(たくさん)

バケツ稲を持参してください。
 品評会をしますので、必ずお持ち下さい。
 バケツごと持ってこられない方は、刈って稲束にしてお持ち下さい。
 栗拾いには袋を2枚以上お持ち下さい。
 栗は有料です。時価で精算して頂きます。

昼食 松茸ご飯、お吸い物ほか

問い合わせ・緊急連絡

0573-75-4417・090-5110-9362 FAX75-4418 (山内總太郎)

0573-75-2109 (椋の湖自然公園管理棟) 当日のみ

~とくちゃんの農小レポート~

「案山子出来上がったよ」

8月の授業日は一年の中で最も楽しみなキャンプの日です。今年は2日間共晴天に恵まれました。授業前に案山子を完成させて広場に並べ、人気投票を行いました。優秀な作品には後日表彰が行われます。

- 1 午前の授業。 畑の除草、かぼちゃの収穫、白菜の種蒔き。かぼちゃは収穫出来ましたが残念ながらトウモロコシは全滅でした。
山内さんからの提供もありカボチャ二個の持ち帰りことができました。
白菜の種蒔きはポットに種をまきました。小さな種に直に触れてみて、こんなに小さな一粒からあの大きな白菜になるのかと驚いている人もいましたが、植物の力の偉大さを理解出来たのでしょうか？。
- 2 川遊び。 11時から弁当をもらって川遊びに出かけ、川上(かわうえ)川で鱒つかみを体験しました。この鱒は夜店の食材としてキャンプ場に持ち帰りました。
- 3 スタッフ達は。 川遊びに出かけた後の残りスタッフ達は、夜店用の食材準備に大忙しでした。今年は農小のお勝手からキャンプ場に運搬したのでとても大変でした。
- 4 案山子の陳列。 農小田んぼの横に作られた柵に固定され、40メートル二段に渡って立てかけられました。近くの道路を通行する人達の人目を引くことでしょう。黄金色の稲穂の先に立ち並ぶ沢山の案山子は、絶好の被写体であり絵になる事間違いなし。
- 5 夜店の準備。 夜の部はキャンプ場の広場を借りて行われました。テントの設営が済むと各グループ毎に決められた担当の準備にかかりました。
豚の丸焼き、焼きそば、フランクフルト、焼きイカ、焼きおにぎり、鱒の塩焼き、から揚げ、フライドポテト、野菜サラダ、フルーツポンチ、奴豆腐、新鮮キュウリやトマトなどなど沢山のメニューが並びました。
お父さんお母さんや先生スタッフの方たちには生ビールも出ました。
- 6 表彰。 夜のアトラクションに先立ちカブトムシ運動会の表彰が行われました。
一位 梶浦君、二位 安井君、三位 掘下君、
賞品は新鮮野菜でした。来年も頑張って強いカブトムシを育てましょう。

7 影絵上演。「かぐや姫」今年はステージを利用したの発表となり、多くのスタッフが山内ディレクターの指揮の下、機敏に動き回りながら練習の成果を無事果たす事ができました。ひとつ残念なことはスタッフには出来栄の程を確認出来ないことです。好評ならば来年も……。

8 キャンプファイヤー。火のオサを先頭に各グループ代表がトーチを持って入場し、火の神に感謝を捧げたのち点火すると、赤々と勢いよく燃え上がり、キャンプファイヤーの醍醐味を満喫しました。
このあとは歌や歌唱指導、じゃんけんゲームなどで楽しみました。

9 グループの出し物。各グループで相談した出し物は、肝試しから始まりなぞなぞ、クイズなどが発表されました。このところ雷さんをご無沙汰で、外での行動がとても助かりラッキーでした。

～翌日の授業～

10 物づくり体験教室。

木工。木切れを利用して思い思いのアイデアを生かした作品作り。

下駄。子供から大人まで各種の製品作りに挑戦し鼻緒は既製品で。

竹細工。竹馬、竹とんぼ、竹笛と丸山先生のご指導を頂きました。

藁細工。今年も地元先生をお招きして草履作りに励みました。

染物。各自持参の素材に夫々工夫をこらした絞りに挑戦しました。

いずれも中々の出来栄でしたので、これらの作品は夏休みの宿題の役に立つことでしょう。

11 流しそーめん。昨年大人気の流しそーめんが今年も行われました。

山内さんちの竹やぶから太目の真竹が提供され、四本の樋を使って次々と流されるソーメンに箸を運ぶのは、結構苦労のようでしたが殆どの人が満腹のようすで、夏の風物？を堪能しました。

～とくちゃんのちょっと一言～

物づくり教室には毎年殆どの人が参加され、熱心に取り組めますが時間が少し足りないような感じがします。材料調達の難しい下駄などは、直前申し込みの方には行き渡らずご迷惑をお掛けしました。

来年も希望があるならば、もう少し早い段階から心がけて材料を集めるようにいたします。冬場の課外授業でも取り組みますので、希望があれば申し出てください。

物づくりは人間が生きてゆくための大切な条件のひとつです。遭ってはならないけれど災害は何時起きるか分かりません。そんな時に役立つ為にも、農小ではこれからも色々な分野にわたり、幅広い活動を進めて行けたらと思っています。12～2月の課外授業に是非ご期待ください。

～ あぼ兄の百姓ばなし～

「いつも思い出す全日本フォークジャンボリー」

「土を耕す、人を耕す」 8月12日(日)CBCテレビで椛の湖農業小学校の授業風景が放送された。一日中の取材が編集されてたった6分間になったが、全体をよく見た映像であった。つまり、あれもこれもとかなり欲張った内容であったが、その中に37年前に行ったコンサート「全日本フォークジャンボリー」のことがかなり入れてあった。

フォークジャンボリーはあぼ兄の中では、農業小学校の原点(出発点)なのだ。フォークソング大好きと聞いていたディレクターはそこのところを理解してくれたのだ。

1960年代(農小の若いお父さんお母さんはまだこの世に存在していない時) 農村の若者は都会へ働きに出た。農業では生活できない政策は「三ちゃん農業」を生んだ。お父ちゃんお兄ちゃんがないので、お母ちゃんとお爺ちゃんお婆ちゃんが農業を支えたのだ。お互いの大変さは分かっている、生活のために都会へ出て行く事は誰にも止められなかった。よく働く農民は高度経済成長を支えた原動力になった。オリンピックを前にした今の中国のようでもあった。

そんな頃、あぼ兄は椛の湖方面行きの路線バスの運転手をしていた。自分たちの生活を守るために、又いわゆる過疎バス対策を訴えるために延べ16日にも及ぶストライキもやった。その一方で、少なくなった若者が集まって活動が始まっていった。レコードコンサートや映画会をしたり、「労音」といった全国組織にも入って会員制で一流の歌手・役者のライブや演劇を鑑賞するなどした。

若者がいない農村でも楽しいことは出来るはず。東京(発)だけが文化じゃない、過疎化していく村・地方からも発信していこうと始まったのが「全日本フォークジャンボリー」なのだ。1969年は「星空の下で歌い明かす」を合言葉に24時間の企画で、日本では大規模野外コンサートの先駆けとなった。1970年は大阪万博の年で2日間48時間、3回目となる1971年は3日間72時間のイベントとなって、当時人口6千人の坂下町に特急が止まって、人口の数倍の人が押し寄せた。

企画からポスター・チケットはもちろん、会場作り・運営まで自分達だけの手作りだった。もともと原野だった所にステージを作り、水道は山の湧き水をパイプで引き、便所は穴の上に掘って小屋をベニヤで囲っただけのもの、電気配線まで仲間の力でやった。

今から思えば無茶なこともあったが、あぼ兄たちには大きな自信になった。

その後、いろいろあって、歌が苦手なあぼ兄は「農業」で都会に情報発信することを思いついたのだ。

日本のフォークソングは高石ともや・岡林信康・上条恒彦たちから始まり、フォークジャンボリーは多くのスターたちを生んだ。吉田拓朗・高田渡などなど。

その一人西岡たかしのグループ「五つの赤い風船」は結成40周年になるという。彼らを迎えて、「フォークジャンボリーメモリアルコンサート」が10月27日(土)に中津川文化会館で開催されることとなった。もちろん我々が「我夢土下座」古井実ちゃんも出演する